

教職課程における「教科以外の活動の指導」に 必要な資質能力に関する調査

——教育実習担当教員への調査を通じて——

石 田 美 清*・古 賀 一 博*・三 村 隆 男*・藤 田 武 志*

(平成15年10月31日受付；平成15年12月11日受理)

要 旨

平成元年の教育職員免許法の改正以来、教職課程において生徒指導、特別活動、道德教育など教科以外の活動の指導に関する教育内容・方法の改善が求められるようになった。教育実習生に必要な資質能力を明らかにし、教員養成教育や現職教育に資するため、平成15年7月に教育実習担当教員を対象とした調査を行った。結果として、特別活動、生徒指導、道德教育の指導に必要な資質能力として、全体的に理論・知識が望まれていた。特別活動においては、学級活動、児童生徒会活動で理論・知識を望むものが最も多く、学校行事、クラブ・部活動においても、体験・経験の次に望まれていた。また、生徒指導・教育相談に関しては、児童生徒理解・現状把握、カウンセリング・教育相談に次いで、道德教育においても、価値観・道德観・人間性に次いで、理論・知識が望まれていることが明らかになった。

KEY WORDS

School Guidance and Counseling	生徒指導	Extra-Class Activities	特別活動
Moral Education	道德教育	Practice Teaching	教育実習

I. 調査の目的

昭和24年に教育職員免許法が制定されて以来、生徒指導、特別活動、道德教育など教科以外の活動の指導に必要な教員の資質能力や、教職課程においてどのように資質能力を育成するかについて研究が十分に行われてきたとは言えない⁽¹⁾。

昭和62年の教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策等について」を受け、平成元年に教育職員免許法が改正されたが、このとき初めて教職課程の中に「特別活動に関する科目」と「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」が設けられた。その後、平成10年の同法の改正によって、「教職課程及び指導法に関する科目」の中で「特別活動の指導法」、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」の中で「生徒指導の理論及び方法」、「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」、「進路指導の理論及び方法」に関する事項を履修することになった。つまり、平成元年以降、従前より設けられていた道德教育を除き、教職課程において、教科以外の活動の指導に関する内容を履修することが義務づけられ、その内容も拡充してきたのである。

* 生徒指導総合講座

しかし、平成9年の教育職員養成審議会答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」は、教員養成教育の中で、教科の専門性が過度に重視され、教科指導をはじめとする教職の専門性がおろそかになっていること、授業科目の名称に相応しい包括的・体系的な教育が十分になされていないこと、開設授業科目間の教育内容の整合性・連続性が考慮されていないことなどを指摘し、「とりわけ生徒指導や特別活動に係る科目については、扱う内容が伝統的学問領域と必ずしも整合しないなどのため、学校の実態を踏まえた実践的内容が求められているにもかかわらず、適切な担当教員が確保できなかつたり、ごく狭い領域に偏して教授されている例が見られるといわれる。」と、教職課程における生徒指導や特別活動の教育内容・方法の問題に言及している。また、教育実習についても、「教育実習の内容が授業実習に偏している」として、特に中学校教育については、「生徒の発達段階から特に生徒指導等に係る課題が多いにもかかわらず、現行の3単位（うち事前・事後指導1単位）では授業実習を行うのが精一杯で、特別活動や部活動も含め教育活動全体を通じて生徒に関する理解を深めたり、学校運営や教員の職務の実態に触れる時間が十分確保できない」と指摘している。

こうした教育職員養成審議会答申の指摘と教職員免許法改正を踏まえ、旧文部省教育助成局は、「教職課程における効果的な教育内容・方法の在り方等に関しモデルを作成するため」に、生徒指導と特別活動に関してそれぞれ3団体に研究開発の委嘱を行っている。

このうち生徒指導に関して、筆者らは、教員257人を対象とした調査によって、教師に必要な生徒指導・教育相談の能力について、学校種別、性別に明らかにし、教職課程における生徒指導の内容・方法に関する開発研究を行った⁽²⁾。

特別活動に関しては、信州教育実践研究会と愛媛大学教育学部による報告書が出されている⁽³⁾。信州教育実践研究会報告書は、長野県内の教員を対象とする調査の結果、「特別活動を指導する実践的指導力では、企画を行う力・児童生徒の内面を見取る力・児童生徒との信頼関係を作り上げる力などが重要であるとされていることがわかった。」としている⁽⁴⁾。愛媛大学教育学部報告書は、小学校教諭を対象とした自由記述による調査の結果、「最も多かった意見は、大学における特別活動の授業科目への期待としても、『小・中学生と同じように体験活動をやらせること』であった。」⁽⁵⁾としている。

この2つの調査は、教員を対象とした調査をもとに特別活動の指導に必要な資質能力を明らかにしたことでは先駆的であったが、特別活動を構成する学級活動、児童生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動それぞれの資質能力について分析されておらず、また歴史的に関連の深い生徒指導、道徳教育との関連性を踏まえた調査ではなかった。

本調査は、こうした研究動向を踏まえ、生徒指導、特別活動、道徳教育など教科以外の活動を指導するために必要な教師の資質能力を明らかにし、教員養成教育や現職教育における教育内容・方法の改善に資することを目的としている。

Ⅱ. 調査の方法

(1) 調査時期・方法

平成15年7月～8月に、中国地方の中核都市⁽⁶⁾に設置されている全公立小学校・中学校114校（小学校81校、中学校33校）に質問紙を各3部送り、教育実習を担当した教員に対して回答を求めた。有効回答は39校62人であった。

(2) 回答者の属性

回答者は、小学校教諭26人（男性11人、女性15人）、中学校教諭36人（男性24人、女性12人）の合計62人で、その教職経験は、5年～35年で平均21.7年であった。これまで担当した教育実習生の数は1～123人（平均13.8人）、平成14年度は0～23人（平均1.2人）、平成15年度は0～9人（平均1.1人）であった。

Ⅲ. 調査の結果

(1) 教育実習生の態度や行動、知識・能力について

黒澤らは、教育実習を受け入れている首都圏の中学校の教育実習担当教員を対象とした調査を行い、教育実習のあり方について自由記述で意見・要望等を尋ねている⁽⁷⁾。このうち、教育実習生の態度や行動に対しては、好意的な意見も多いが、次のような意見もみられている。

「教員として資質が問われるのは教科授業は当然のことであるが、生徒の生活指導ができなければ教員として資質がないのに等しい」、「本人によるところも多いと思いますが、大学での事前指導が不十分な大学があります。まずは基本的な心がまえ、マナー、やる気ぐらひは事前にきちんと指導しておいてほしいと思います」、「教科の指導技術や知識的なものは現職になっていくだけでも磨いていくことはできる。教員に適しているかどうかを大学側で選考してもらい、一定レベルを有する学生のみを教育実習するようにしたい」、「社会的常識の欠如、人間性の問題、興味本位、実習校依存、教育実習生としての適格者の見極めが大学に必要」、「現場をかき乱すような学生の教育実習意識の改革が必要」などである。

表1は、最近の教育実習生の態度と行動について、回答者に一般的な傾向を尋ねた結果を示している。これによれば、すべての質問項目で約7割以上が、「(大変) 良かった」と回答している。特に、「教育者としての使命感」、「服装等」、「基本的マナー」については9割以上が「(大変) 良かった」としている。反対に、「(あまり・全く) 良くない」のは「教員採用試験を受けるなど教職への関心・志望」で、全体の1割強であった。

表1；教育実習生の態度と行動

人 (%)

	大変良かった	良かった	どちらともいえない	あまりよくない	全く良くない	有効回答
教員採用試験を受けるなど教職への関心・志望は	5(8.1%)	39(62.9%)	10(16.1%)	8(12.9%)	0(0.0%)	62
教育実習を通じて真摯に学ぼうとする態度は	9(14.5%)	39(62.9%)	10(16.1%)	3(4.8%)	1(1.6%)	62
先輩の教師から学ぶという姿勢は	6(9.7%)	38(61.3%)	13(21.0%)	4(6.5%)	0(0.0%)	61
教育者としての使命感は	22(35.5%)	34(54.8%)	4(6.5%)	2(3.2%)	0(0.0%)	62
児童生徒に対する教育的愛情は	5(8.1%)	39(62.9%)	17(27.4%)	1(1.6%)	0(0.0%)	62
教育実習生としての服装等は	13(21.0%)	43(69.4%)	5(8.1%)	1(1.6%)	0(0.0%)	62
教育実習生としての行動は	3(5.8%)	38(73.1%)	8(15.4%)	2(3.8%)	0(0.0%)	61
教育実習生としての言葉遣いは	6(9.7%)	39(62.9%)	13(21.0%)	3(4.8%)	0(0.0%)	61
遅刻をしないなど社会人としての基本的マナーは	10(16.1%)	40(64.5%)	9(14.5%)	1(1.6%)	2(3.2%)	62
学校内における携帯電話や喫煙等の基本的マナーは	18(29.0%)	35(56.5%)	6(9.7%)	3(4.8%)	0(0.0%)	62

表 2 ; 教育実習生の知識・能力・意識

人 (%)

	大変身に 付いていた	身に付いて いた	どちらと もいえない	あまり身に 付いていない	全く身に付 いていない	有効 回答
教職の意義や教員の役割についての知識・理解	1(1.6%)	21(33.9%)	33(53.2%)	6 (9.7%)	1(1.6%)	62
児童生徒の成長・発達について知識・理解	0(0.0%)	13(21.0%)	40(64.5%)	9 (14.5%)	0(0.0%)	62
教科に関する専門的知識・理解	1(1.6%)	13(21.0%)	34(54.8%)	13(21.0%)	0(0.0%)	61
広く豊かな教養	0(0.0%)	8(15.4%)	33(63.5%)	9 (17.3%)	1(1.9%)	61
児童生徒とのコミュニケーション能力	1(1.6%)	28(45.2%)	26(41.9%)	7(11.3%)	0(0.0%)	62
カウンセリングマインドの能力	1(1.6%)	7(11.3%)	42(67.7%)	10(16.1%)	2(3.2%)	62
児童生徒を思いやり感情移入できる能力	1(1.6%)	23(37.1%)	31(50.0%)	6 (9.7%)	1(1.6%)	62
自己表現する能力	2(3.2%)	18(29.0%)	28(45.2%)	14(22.6%)	0(0.0%)	62
困難な事態を処理する能力	1(1.6%)	4(6.5%)	30(48.4%)	23(37.1%)	3(4.8%)	61
教師としての規範意識	0(0.0%)	22(35.5%)	31(50.0%)	7(11.3%)	1(1.6%)	61
児童生徒一人一人を大切にすること意識	2(3.2%)	38(61.3%)	20(32.3%)	2(3.2%)	0(0.0%)	61
学校全体の立場で児童生徒を指導する能力	0(0.0%)	5(8.1%)	27(43.5%)	25(40.3%)	5(8.1%)	62
学級全体の児童生徒を指導する能力	0(0.0%)	7(13.5%)	24(38.7%)	29(46.8%)	2(3.2%)	62
一人一人の児童生徒を指導する能力	0(0.0%)	15(24.2%)	35(56.5%)	12(19.4%)	0(0.0%)	62

表 2 は、教育実習生の知識・能力について、回答者に一般的な傾向を尋ねた結果を示している。これによれば、「(大変) 身に付いていた」のは、「児童生徒一人一人を大切にすること意識」(64.5%) が最も多く、次いで「児童生徒とのコミュニケーション能力」(46.8%)、「児童生徒を思いやり感情移入できる能力」(38.7%)、「教師としての規範意識」(35.5%)、「教職の意義や教員の役割についての知識・理解」(35.5%) などであった。反対に「(あまり・全く) 身に付いていない」のは、「学級全体の児童生徒を指導する能力」(50.0%)、「学校全体の立場で児童生徒を指導する能力」(48.4%)、「困難な事態を処理する能力」(41.9%) で、全体の 4 ～ 5 割の教師が挙げている。

(2) 教員養成教育への期待

表 3 は、大学の教員養成教育に期待することを尋ねた結果を示している。これによれば、「大いに期待する」のは「教師とは何かについて考えること」(38.7%) が最も多く、次いで、「学校や教育とは何かについて考えること」(27.4%)、「教育実践を行うための理論的よりどころを持つこと」(27.4%)、「教材の開発や教科内容を研究する力」(25.8%) で、全体の 1/4 の以上の回答者が挙げている。

一方、「全く期待しない」と回答したものは少ないが、「あまり期待しない」をあわせてみると、「非行児童生徒を指導する力」(32.3%)、「いじめを指導する力」(30.7%)、「不登校児童生徒を指導する力」(24.3%) などとなっている。

表3；教員養成教育に期待すること

人(%)

	大いに期待する	期待する	どちらともいえない	あまり期待しない	全く期待しない	有効回答
授業技術や方法の力	12(19.4%)	29(46.8%)	9(14.5%)	12(19.4%)	0(0.0%)	62
教材の開発や教科内容を研究する力	16(25.8%)	35(56.5%)	6(9.7%)	4(6.5%)	0(0.0%)	61
個々の児童生徒を理解する力	13(21.0%)	28(45.2%)	9(14.5%)	10(16.1%)	2(3.2%)	62
集団として児童生徒を理解する力	10(16.1%)	25(40.3%)	15(24.2%)	8(12.9%)	3(4.9%)	61
集団的に児童生徒を指導する力	10(16.1%)	28(45.2%)	11(17.7%)	11(17.7%)	2(3.2%)	61
個別的に児童生徒を指導する力	10(16.1%)	26(41.9%)	15(24.2%)	9(14.5%)	1(1.6%)	61
学級・ホームルーム経営の力	7(11.3%)	27(43.5%)	16(25.8%)	11(17.7%)	1(1.6%)	62
いじめを指導する力	8(12.9%)	22(35.5%)	13(21.0%)	14(22.6%)	5(8.1%)	62
非行児童生徒を指導する力	7(11.3%)	19(30.6%)	16(25.8%)	15(24.2%)	5(8.1%)	62
不登校児童生徒を指導する力	6(9.7%)	23(37.1%)	16(25.8%)	11(17.7%)	4(6.5%)	61
教育相談（カウンセリング）の力	14(22.6%)	30(48.4%)	11(17.7%)	5(8.1%)	1(1.6%)	61
学校や教育とは何かについて考えること	17(27.4%)	35(56.5%)	6(9.7%)	3(4.8%)	0(0.0%)	61
教師とは何かについて考えること	24(38.7%)	27(43.5%)	7(11.3%)	3(4.8%)	0(0.0%)	61
教育実践を行うための理論的よりどころを持つこと	17(27.4%)	19(30.6%)	19(30.6%)	6(9.8%)	0(0.0%)	61
教科内容や構成の理論	9(14.5%)	27(43.5%)	19(30.6%)	6(9.7%)	0(0.0%)	61
授業を行うための教授理論	8(12.9%)	23(37.1%)	24(38.7%)	5(8.1%)	1(1.6%)	61
生徒指導の理論	12(19.4%)	26(41.9%)	18(29.0%)	5(8.1%)	1(1.6%)	62
教育相談（カウンセリング）の理論	14(22.6%)	29(46.8%)	14(22.6%)	5(8.1%)	0(0.0%)	62
児童生徒を指導する理論	6(9.7%)	30(48.4%)	22(35.5%)	4(6.5%)	0(0.0%)	62
児童生徒を理解する理論	10(16.1%)	35(56.5%)	14(22.6%)	3(4.8%)	0(0.0%)	62

(3) 教育実習生に必要な特別活動、生徒指導、道德教育の資質能力

将来、教員として充実した特別活動、生徒指導、道德教育を行うために、教育実習生は、教員養成教育の段階で、どのような資質能力を身につけたり、知識を学習したりしておくことが必要なのだろうか。自由記述による回答を求めて分析を行った。

① 特別活動の指導に必要な資質能力

特別活動については、A.学級活動、B.児童生徒会活動、C.学校行事、D.クラブ・部活動のそれぞれについて尋ねてその結果を分析した。

A. 学級活動

学級活動については、次に示すように、理論・知識を挙げるものが18人と最も多く、次いで、集団づくりの技術や能力（15人）、体験・経験（7人）、リーダー・指導者の資質（7人）、児童生徒理解・現状把握（5人）などの順となっている。

〔理論・知識〕（18人）

・スキルや事例を頭で記憶するより、学級活動がねらうものをしっかりと指導していただき

たい。

- ・まず、学級活動の特質、例えば児童の自主的実践的な活動が大切であることを知る。
- ・実践をしないと難しいでしょうが、少なくとも基礎的な理論（教育理論だけでなく児童心理学等も幅広く身に付けておくべきだと思います。）
- ・教師の指導と生徒の自主的活動を、どう組み合わせていけばよいかについて、理論的になること。
- ・学級活動の具体的内容の知識と理解。

〔集団づくりの技術や能力〕（15人）

- ・集団づくりや集団活動を指導する知識と技術を身に付けることが必要。会議の技術や会議の理論を民主的な社会をつくるための方法として身に付けて欲しい。
- ・個人を生かす中でクラスとしてまとめる力。
- ・実践的グループダイナミクス、集団的指導力の養成。

〔体験・経験〕（7人）

- ・学級活動には限りませんが、教室の中だけの討論、学習だけでなく、学習のフィールドを校外へ出し、より体験的活動的な取り組みをされてはいかがでしょうか。本当に教員を希望する学生なら、実際に小中学校に来て学級活動や児童生徒会活動と一緒に参加されるのもよいと思います。現場の活動に触れながら大学に戻って理論的な構築されると良いと思います。
- ・子どもと触れ合う場をたくさんもつ。現場の様々な実践を知る。
- ・自ら失敗したり困難に立ち向かった経験があればそれが何でも良いと思う。特に大学では思わないが。

〔リーダー・指導者の資質〕（7人）

- ・児童生徒の積極性をしっかり全面に出してやるような工夫をしっかりと研究していただきたい。
- ・何事にも意欲的に取り組もうとする姿勢。前向きな建設的な行動。常に生徒の手本であるという自覚と能力以前の教師としての資質をみがいて欲しい。
- ・どんな活動を実際にするか。現場の教員に話をしてもらってはどうか。また集団づくりの在り方、方法やリーダーの育て方など。

〔児童生徒理解・現状把握〕（5人）

〔話し合いを進める能力〕（5人）

〔コミュニケーション能力・人間関係〕（4人）

B. 児童生徒会活動

児童生徒会活動についても、次に示すように、理論・知識を挙げるものが11人と最も多く、次いで、リーダー・指導者の資質（7人）、体験・経験（4人）、児童生徒理解・現状把握と事例（各2人）などの順となっている。

〔理論・知識〕（11人）

- ・ 具体的なことは現場に出てみなければわからないことがほとんどであろう。生徒会が何のためにあるのかという、原理原則を指導していただきたい。
- ・ 学校の中での位置づけ、学級から出た意見を学校全体で話し合う中心となる活動であることを知る。
- ・ 児童会活動の具体的内容の知識と理解。
- ・ 児童生徒会活動の意義。
- ・ 学級活動がその基盤になっていること。異年齢の活動である意義。全教職員が全児童と関わって行く意義など学級や学年をつなぐものとして大切にしたいと思います。

〔リーダー・指導者の資質〕（7人）

- ・ 統率力、児童会活動のねらい、児童の自主性の育て方、実践例。
- ・ 子どもと触れ合う場をたくさん持つ。リーダーとして活動する。
- ・ 生徒会執行部への指導力（企画力、執行力）の養成。

〔体験・経験〕（4人）

- ・ 児童生徒会活動を指導するためには、内容の具体的理解は必要であるが、自らが組織において民主的に運営する経験が必要だと思う。
- ・ 特色ある学校づくりにどのようなことができるか独創的かつ前向きな提案ができるような様々な体験活動を養成段階で身に付けておいてほしい。
- ・ ボランティアや校外での活動を学生時代にも体験しているとどこかで役に立ちそうです。

〔児童生徒理解・現状把握〕〔事例〕（各2人）

C. 学校行事

学校行事については、体験・経験（9人）を挙げるものが最も多く、次いで、理論・知識（6人）などの順となっている。

〔体験・経験〕（9人）

- ・ キャンプファイヤーや野外炊事、ボランティア活動などいろいろな行事活動に率先して参加・体験する。行事の企画・運営を行ってみる。
- ・ 行事の企画から全てやってみる経験は大切だとおもいます。
- ・ できるだけ活動を体験しておくことが望ましい。
- ・ 学校や地域社会の活動にできるだけ参加する。
- ・ 劇や登山やレクリエーションを含めて幅広い体験と視聴覚機器を積極的に使ったり、こなそうという気持ちが大切である。

〔理論・知識〕（6人）

- ・ 学校行事の具体的内容の知識と理解。
- ・ 行事には、それぞれ目的がある。目的と実際の内容のつながり等を考えて欲しいので、ど

んな行事があって、ただ遂行されればよいのではなく、そこには目的があるのだということを知って欲しい。

- ・それぞれの学校行事の意義を捉え、その学校行事により、子ども達一人ひとりが成長できるような行事の計画・運営能力。

〔社会性〕〔児童理解・現状把握〕（各3人）

D. クラブ・部活動

クラブ・部活動については、体験・経験（15人）を挙げるものが最も多く、次いで、理論・知識（11人）、特技・趣味（10人）、積極性（3人）の順となっている。

〔体験・経験〕（15人）

- ・自分が入部しているサークル活動以外の体験入部やサークル同士の交流会などを大学でして、幅広い活動が許容できるようになって欲しい。
- ・スポーツの指導は大変大切です。プラス、文化系のものを一つ二つできるように。
- ・大学のサークル等で何かを精いっぱい取り組んでおくと、その分野についてクラブ部活動等で指導に役立つ。
- ・運動部の顧問として夏休み冬休みの練習に参加してはどうか。
- ・いろいろな文化やスポーツを経験し、ある程度の専門的知識が必要と思う。

〔理論・知識〕（11人）

- ・学校教育としての部活動の意義。
- ・勝利主義ではなく、その活動を通して自分が何を教えたいのかということ、技術的な指導はあまり関係ないと思う。
- ・部活動の在り方についての知識など。

〔特技〕（10人）

- ・特技を持っておくこと。
- ・自分自身の特技をしっかりとみがく。
- ・何かと得意なもの（趣味・特技）があると、子ども達と一緒に活動でき児童理解が深まると思います。

〔積極性〕（3人）

〔リーダー・指導者の資質〕〔児童理解・現状把握〕〔指導技術〕（各2人）

② 生徒指導・教育相談の指導に必要な資質能力

生徒指導・教育相談については、児童生徒理解・現状把握（12人）を挙げるものが最も多く、次いで、カウンセリング・教育相談（12人）、理論・知識（7人）、体験・経験（6人）などの順となっている。

〔児童理解・現状把握〕(12人)

- ・軽度発達障害の子ども達への学習を深め、対応のしかた、保護者への接し方。また不登校児童への教育相談の仕方などの訓練をしておく、これからの学校の即戦力になっていくのではないかと。
- ・実際の事例をもとに研修をすることも大切だが、一人ひとりの児童をどのように児童理解するのかを大切に育てて欲しい。
- ・一般の学校には様々な家庭環境から様々な悩みを持った子が通っていることを十分理解して欲しい。
- ・現場はますます大変、複雑、困難であることをよくわからせておく。
- ・表面に見えることだけでなく、児童が内面に秘めていることや、育っている環境を理解した上で、生徒指導にあたること。

〔カウンセリング・教育相談〕(12人)

- ・カウンセリング技術。カウンセリングマインド。
- ・子ども一人一人を受け入れ、よりよい方法へ導いていけるための教育相談の手法について少しでも身に付けて現場に来て欲しい。
- ・カウンセリングや教育相談を身につけておく必要があるだろう。

〔理論・知識〕(7人)

- ・積極的な生徒指導についてしっかり研究していただきたい。
- ・関係機関、カウンセリング理論。児童相談所、少年院までの生徒指導上必要となる関係諸機関について。
- ・理論的なことをしっかり勉強してください。後は、現場で実際に体験する中で学べばよいと思います。

〔体験・経験〕(6人)

〔傾聴〕(5人)

③ 道徳教育の指導に必要な資質能力

道徳教育については、価値観・道徳観・人間性(11人)を挙げるものが最も多く、次いで、理論・知識(11人)、社会性(5人)などの順となっている。

〔価値観・道徳観・人間性〕(11人)

- ・道徳教育の重要性をしっかり認識しておくこと。道徳観、倫理観をしっかり身に付けておくこと。
- ・自分の道徳的価値を高めておくこと。
- ・人間としての規範意識。
- ・生きることについて深く考えること。教師、人間としての規範意識。
- ・自分自身の価値をしっかり身に付けてほしいとともに社会的な立場で考える力が欲しい。
- ・本人が道徳性を身につけておく必要があると思う。大学生活の中で、学級の規律を守るな

どの姿勢が必要だと思う。

〔理論・知識〕（11人）

- ・ 道德の時間をどう進めるか。原理原則を指導していただきたい。
- ・ 他国の宗教教育やルールを学ぶ方法等を学習させる。
- ・ 今なぜ道德教育の必要性が言われているのか。道德教育とは何か。

〔社会性〕（5人）

- ・ いろいろな本を読むこと、社会の様子をよく見ること、自分のものの考え方、見方を振り返ることなどを大切にして、教師の卵自身をみがくこと。
- ・ 自分自身の価値をしっかりと身に付けてほしいとともに社会的な立場で考える力が欲しい。
- ・ 社会人としての一般的なマナー、道德心。

〔コミュニケーション能力・人間関係〕（4人）

〔模擬授業経験〕（4人）

〔積極性〕（2人）

IV. 考察と今後の課題

本調査では、教育実習を担当した教員は、教育実習生の態度や行動について、全体的に「(大変)良かった」という回答が多かった。しかし、黒澤らの自由記述による調査結果では、教育実習生に対する厳しい意見もあった。小学校、中学校の学校種別、地域、教育実習生を派遣する大学の教育などによって、大きく差が見られるのではないかと考えられる。

教育実習生の知識・能力・意識については、全体的に「どちらともいえない」という回答が多く、教育実習担当教員の教育実習生に対する評価はやや曖昧であるが、児童生徒一人一人を大切にする意識や児童生徒とのコミュニケーション能力を5割以上が「(大変)身に付いている」と回答している。しかし、学級全体や学校全体の立場で指導する能力については半数が「あまり・全く身に付いていない」と回答している。つまり、集团的に指導する能力については課題があると考えられる。

教員養成教育への期待については、教師、学校、教育とは何かについて考えることが期待されている。しかし、児童生徒の個別の問題行動に対する指導については、あまり期待されていなかった。

特別活動、生徒指導、道德教育の指導に必要な資質能力については、全体的に理論や知識が望まれている。特別活動においては、学級活動、児童生徒会活動で理論・知識を望むものが最も多く、学校行事、クラブ・部活動においても、体験・経験の次に望まれている。また、生徒指導・教育相談に関しては、児童生徒理解・現状把握、カウンセリング・教育相談に次いで、道德教育においても、価値観・道德観・人間性に次いで、理論・知識が望まれている。

従来の調査研究が、まず、教科以外の活動の指導に必要な教員の資質能力について、文献等によりカテゴリー化して調査を行っていたのに対して、本調査は、教育実習担当教員の自由記述をもとに分類したこと、また特別活動の各分野ごと、生徒指導、道德教育を含めて回答を求

めたことに、その特色があった。しかし、回答数が少なかったため、学校種別、性別などによる分類はできず、今後の調査の課題としたい。

註及び引用文献

- (1) 生徒指導の資質能力と形成について言及したものとしては、岸本幸次郎らによる調査研究がある。この中で、林孝は、生徒指導の資質能力を、1. 誠実で教師としての使命感があること、2. 教師対子ども、子どもの間に開かれた関係をつくること、3. 子どもの興味や関心に精通し、子どもとの密接な人間関係をつくること、4. 子どもの状況を正しく把握したり、カウンセラーの能力を持っていること、5. 子どもの集団を組織したり、遊びなどを指導できることの5つのカテゴリーにわけて調査を行い、学校別、年齢別、性別の成長パターンを明らかにしている。(林孝「生徒指導能力の形成」、岸本幸次郎、久高喜行『教師の力量形成』ぎょうせい、昭和61年。165～218頁。)

また、坂本昂らは東京都の公立中学校、高等学校の教育実習担当教員を対象とした調査を行っている。教科以外の活動に関する指導能力を、①学活やホームルーム等の指導ができる。②道徳の時間の指導ができる。③クラブや部活の指導ができる、④学校行事の指導ができる。⑤生徒会活動や委員会活動の指導ができる。⑥生徒の悩みを聞き、相談にのることができる。⑦問題行動を初期のうちに発見し、適切な指導ができる。⑧生徒の個性や特性を見抜き、将来の進路等について助言ができるの8つに分けて調査を行い、①～⑧のいずれに関しても、「担当教師のみる必要度は全体に弱い。…教育実習生については、教科以外の活動に関する指導力を望むことは所詮無理なことだと担当教師はみているのだろうか。…相対的にみて比較的強い必要度のしめされているものをあげると、①学活やホームルーム等の指導ができるということである。他のことに関しての指導は無理だとしても、せめて学活やホームルーム等についての指導はできて欲しいと思っているのである。反対に必要な度の比較的弱いものとしては、⑧生徒の個性や特性を見抜き、将来の進路等について助言ができる。⑤生徒会活動や委員会活動などの指導ができる。④学校行事の指導ができる。⑦問題行動を初期のうちに発見し、適切な指導ができる等があげられる」としている。(岡田忠男「教育実習担当現場教師の意見」、坂本昂『教育実習において養成される教師の資質ならびに養成に必要な諸条件』(文部省科学研究費総合研究(A)研究成果報告書)、昭和61年、59～64頁)

さらに、教職課程における道德教育、特別活動、生徒指導、教育相談に関する教育内容・方法に言及したものとしては、長谷川栄らによる開発研究がある。(長谷川栄『総合大学における教師教育のプログラム開発に関する実証的研究』(平成4年度文部省科学研究費補助金(一般研究(B)報告書)平成5年、191～235頁。)

しかし、先の岸本らと坂本らの調査は、教員の資質能力をカテゴリー化して調査を行ったものであり、そのカテゴリー化した内容が、生徒指導や特別活動の資質能力に該当するかどうか十分に説明されているとは言えない。また、長谷川らの開発研究も、教育実践においてどのような資質能力が必要とされているかを明らかにしていない。

- (2) 鳴門教育大学生徒指導研究会『生徒指導の理論と方法』平成12年。
(3) 国立国会図書館及び東京学芸大学付属図書館の所蔵検索による。
(4) 信州教育実践研究会『「特別活動の理論と実践」における教育内容・方法に関する開発研究：特別活動を指導する実践的指導力を中心として』、平成13年、53頁。
(5) 愛媛大学教育学部『教職課程における教育内容・方法の開発研：「特別活動の指導法」』平成13年、17頁。
(6) 市内には、国立大学(教育学部)1校、私立大学5校、私立短期大学4校がある。公立学校の大半は国立大学の教育実習協力校である。調査地域の選択にあたっては、公立学校の教育実習担当校

の数，大学の教職課程の内容に関する資料収集の利便性等を考慮した。

- (7) 黒澤英典『教育実習及び介護等体験の教育的意義と内容方法に関する総合的調査研究』（科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書）平成12年，152～162頁。

※本論文は，平成14年度上越教育大学研究プロジェクト（特定研究）「教科以外の活動（生徒指導，特別活動）における教師の指導能力に関する実証的研究」の成果の一部です。

※調査にご協力いただいた小学校，中学校の諸先生に感謝いたします。

A SURVEY ON STUDENT TEACHERS' COMPETENCE EXPECTED BY CONSULTANT TEACHERS IN CHARGE OF TEACHING PRACTICE IN THE FIELD OF GUIDANCE AND COUNSELING AND EXTRA-CURRICULAR ACTIVITIES

ISHIDA Yoshiaki*, KOGA Kazuhiro*, MIMURA Takao*, FUJITA Takeshi*

ABSTRACT

A few surveys have done on the competence of student teachers in the field of guidance and counseling and extra-curricular activities. When the Teachers License Law was revised in 1989, students who wanted to obtain the teachers license needed to obtain credits in guidance and counseling and extra-curricular activities. In 1998, Teacher License Law was revised again, the more and different types of credits became needed.

To determine the level of competence expected of student teachers in the field of guidance and counseling and extra-curricular activities, questionnaires were sent to 81 elementary school and 33 junior high schools of a medium-sized city in June 2003. 62 responses were received from the consultant teachers who were in charge of teaching practice.

The results are as follows :

(1) Most consultant teachers rated highly the attitude and behavior of student teachers in their teaching practice. However, they were not rated as highly on their group guidance ability. The consultant teachers expected the student teachers to consider the meanings and roles of a teacher, school and education in their pre-service education.

(2) The consultant teachers expected student teachers to have learnt the educational theories and to put this knowledge to practice in the homeroom and in student activities. As for school events and club activities, most consultant teachers expected student teachers to widen their experiences, then learn the educational theories and expand their knowledge. In the field of guidance and counseling, the consultant teachers expected most of them to have a right understanding pupils and to apply this understanding to their counseling abilities. As for moral education, the student teachers were expected to have good moral values, a knowledge of educational theories and to improve their knowledge.

* Division of School Guidance and School Administration